第201回　中小企業の景気動向調査

調査時点	2024年8月下旬～9月上旬
調査対象期間	2024年7月～8月実績・9月予想値　2024年10月～12月見通し
調査対象企業	当金庫お取引先1,633社（大阪府内ならびに尼崎市）
回答企業数	567社
回答率	34.7%
調査方法	調査票郵送による回答、インターネットによる回答
分析方法	DI（Diffusion Index）を中心に分析

DIとは、売上、収益、価格、数量について、「増加」（上昇）と回答した企業割合から「減少」（低下）と答えた企業割合を差し引いた値

〔例：売上DIの場合〕

売上が「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いて求めます。

売上が「増加」した企業	「変わらず」	売上が「減少」した企業
45%	20%	35%

45%　－　35%　＝10　　←――　売上DI

アンケート回答企業の内訳

業種別 / 従業員別	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	サービス業	運輸業	不動産業	計	構成比	累計構成比
1～4	33	25	22	3	29	21	0	32	165	29.1%	29.1%
5～10	52	19	9	1	37	10	4	20	152	26.8%	55.9%
11～20	54	14	3	1	21	8	4	2	107	18.9%	74.8%
21～30	20	4	0	4	6	8	6	2	50	8.8%	83.6%
31～50	14	7	2	1	2	5	1	1	33	5.8%	89.4%
51～100	10	5	4	1	3	9	7	5	44	7.8%	97.2%
101～	7	3	1	0	1	3	1	0	16	2.8%	100.0%
従業員数不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	100.0%
計	190	77	41	11	99	64	23	62	567	100.0%	
構成比	33.5%	13.6%	7.2%	1.9%	17.5%	11.3%	4.1%	10.9%	100.0%		

総　合

回復基調？軌道に乗るのか？

売上ＤＩは－6.1（前回比＋5.2ポイント）、収益ＤＩは－11.8（前回比＋6.7ポイント）となり、前回調査時の7-9月期の見通しと比べ、売上ＤＩは0.5ポイント下振れし、収益ＤＩは3.3ポイント上振れしました。

売上ＤＩが上昇したのは、小売業が±0.0（前回比＋16.0ポイント）、運輸業13.1（前回比＋13.1ポイント）、不動産業が－4.8（前回比＋13.1ポイント）、製造業が－10.5（前回比＋11.1ポイント）、建設業が－5.2（前回比＋6.7ポイント）の5業種となる一方、下落したのは卸売業が－6.5（前回比△12.4ポイント）、サービス業が－1.6（前回比△11.2ポイント）、飲食業が－27.3（前回比△1.2ポイント）3業種となり、回復基調といえるのか、不安定な状況にあります。

販売価格ＤＩは、13.3（前回比△6.6ポイント）、販売数量ＤＩは－11.4（前回比＋5.8ポイント）となりました。物価高は続いていますが販売価格への転嫁は困難で収益性はますます悪化しており、販売数量の増加が売上を支えています。

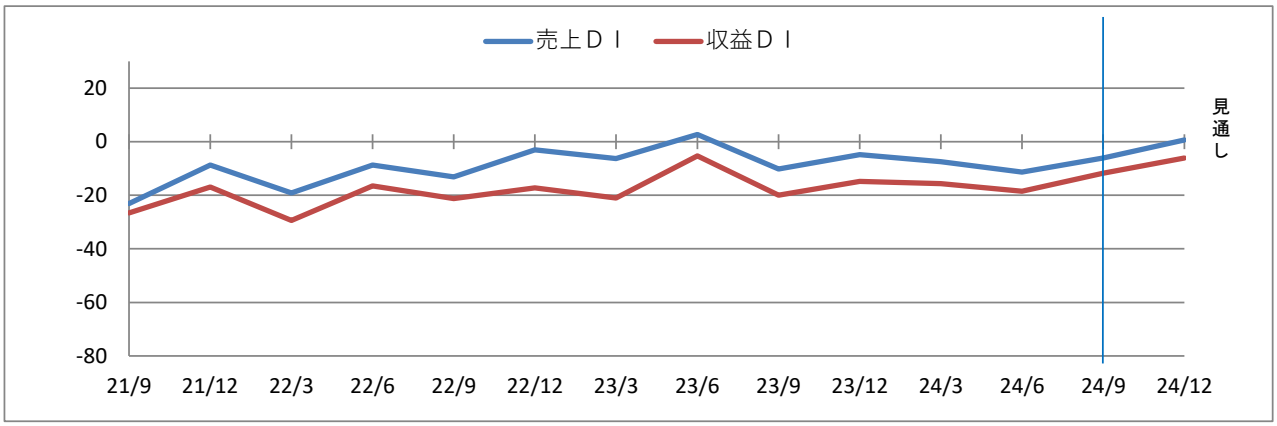
2024年10-12月期は、売上ＤＩが6.7ポイント、収益ＤＩが5.7ポイント、販売価格ＤＩが1.7ポイント、販売数量ＤＩが8.3ポイントそれぞれ上昇すると予測し、年末商戦への期待が伺えます。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が70.8%（前回比△3.3ポイント）、「売上停滞減少」が48.0%（前回比△3.7ポイント）、「一般経費増大」が47.0%（前回比△2.5ポイント）、「人手不足」が40.0%（前回比△1.0ポイント）となりました。

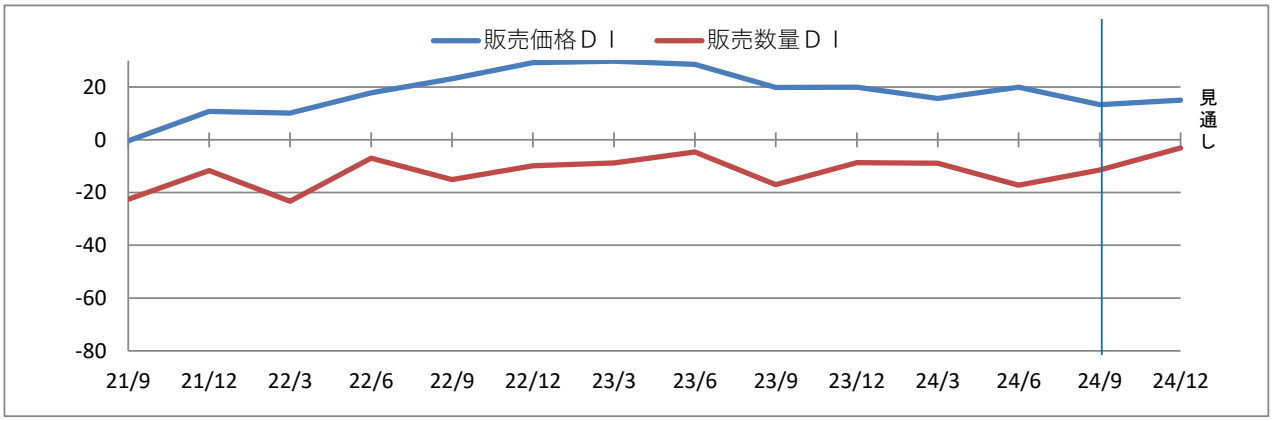
「仕入単価上昇」は8業種中、製造業、卸売業、飲食業、不動産業の4業種で前回から増加しました。

設備投資は「実施中」15.0%（前回比＋0.3ポイント）、「予定あり」11.9%（前回比△2.4ポイント）の合計26.9%となり、全体では依然堅調な推移が続いていますが、製造業、卸売業は後退しています。

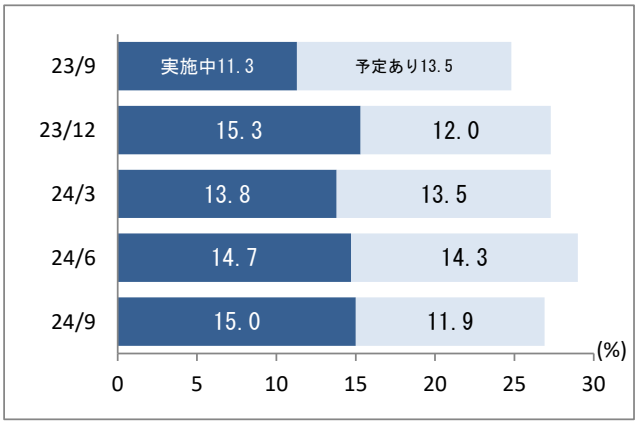
売上ＤＩ・収益ＤＩの推移　　n= 567



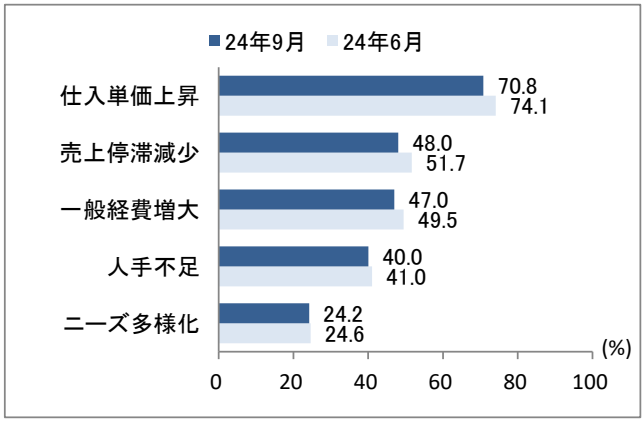
販売価格ＤＩ・販売数量ＤＩの推移



設備投資動向



経営上の問題点



製造業　売上DI先行き上昇　回復基調本物か？

売上ＤＩは－10.5（前回比＋11.1ポイント）、収益ＤＩは－17.7（前回比＋11.2ポイント）となり、前回調査時の7-9月期の見通しと比べ、売上ＤＩは7.7ポイント、収益ＤＩは10.6ポイントそれぞれ上振れしました。販売数量の増加が、売上増加の主な要因となっています。

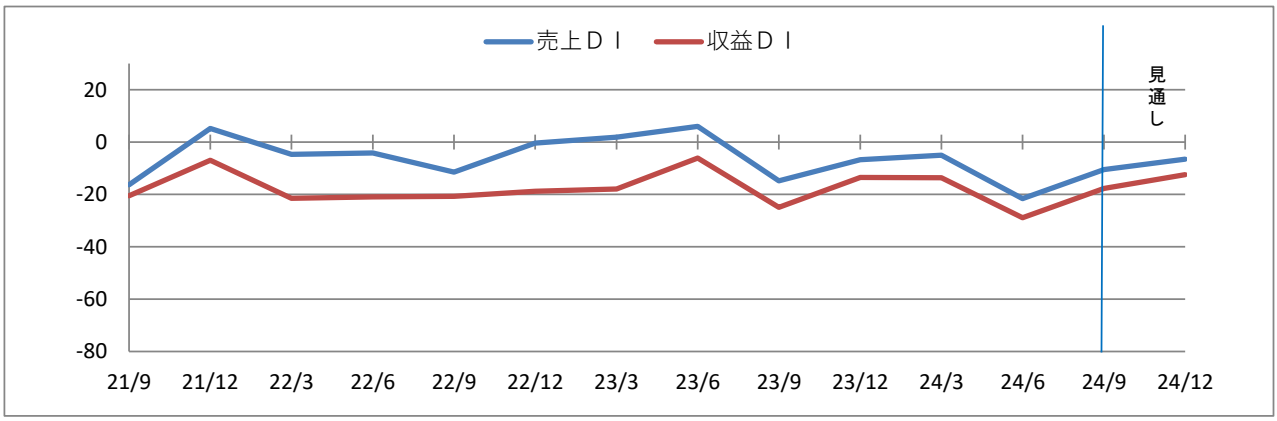
2024年10-12月期は、売上ＤＩが4.0ポイント、収益ＤＩが5.3ポイント、販売価格ＤＩが2.1ポイント、販売数量ＤＩが6.5ポイントと、それぞれ上昇すると見込んでいます。

企業の声は「大手企業は決算数字が良いが、中小企業は厳しいまま。昇給は至難の業」「7月以降の仕事が減少しており先行きが不安だ」「人材雇用が思うようにいかず苦慮している」「受注の低迷が続いており、新規開拓を進めねばならない」との声が聞かれました。市場の仕事量は増加している感はあるが、収益性の低い受注は控える傾向が強まっています。その背景には、人件費やエネルギー価格上昇の価格転嫁が難しいことがあり、業況は回復基調までには至っていないという声が聞かれました。

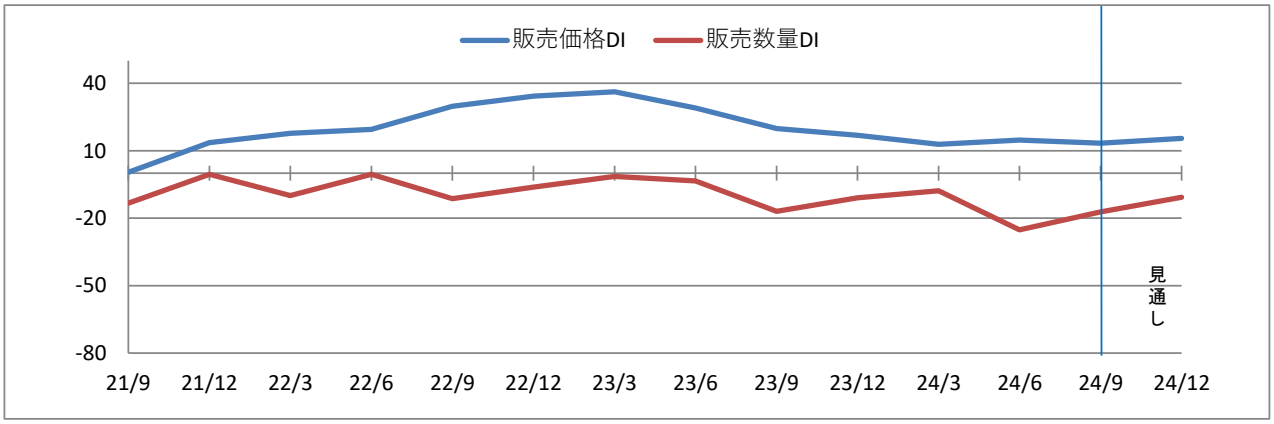
経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が84.2%（前回比＋1.4ポイント）、「売上停滞減少」が58.9%（前回比△7.6ポイント）、「一般経費増大」が48.4%（前回比△4.7ポイント）、「人手不足」が35.3%（前回比△4.9ポイント）となり、仕入コストが増々上昇し根強い問題点となっています。

設備投資は「実施中」が16.0%（前回比△0.9ポイント）、「予定あり」が11.7%（前回比△4.0ポイント）で合計27.7%となり、前回調査から設備投資意欲は後退しました。

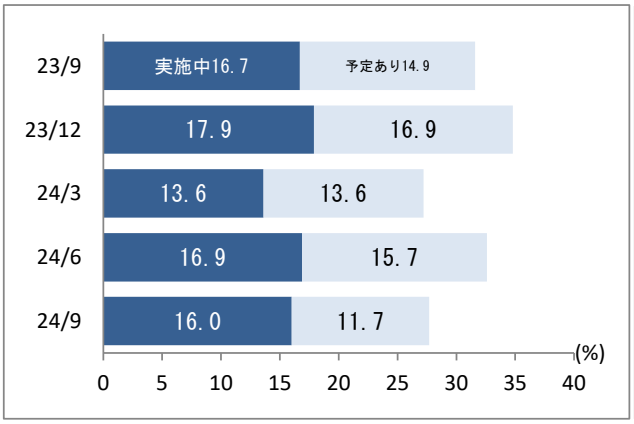
売上ＤＩ・収益ＤＩの推移　n= 190



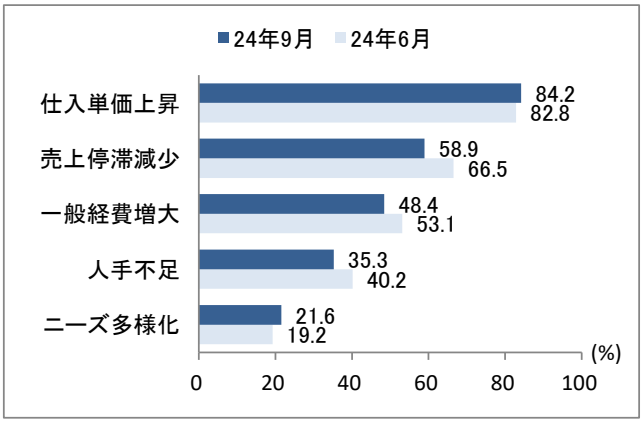
販売価格ＤＩ・販売数量ＤＩの推移



設備投資動向



経営上の問題点



卸売業　先行き不安　年末商戦でも横這い

売上ＤＩは－6.5（前回比△12.4ポイント）、収益ＤＩは－6.5（前回比＋3.1ポイント）となり、前回調査時の7-9月期の見通しと比べ、売上ＤＩは6.5ポイン下振れし、収益ＤＩは4.3ポイント上振れしています。

企業からは、「円安、人手不足、仕入価格の上昇などの問題を抱えながら、南海トラフ地震などの自然災害にも対応しなければならず、厳しい8月となった」「メーカーや仕入先からの再三の値上げ通告の対処に苦慮している」「規模の大小に関わらず倒産が増加しており最大のネックである」との声が聞かれ、個人消費の先行きが見通せない中、先行きに不安を抱えています。

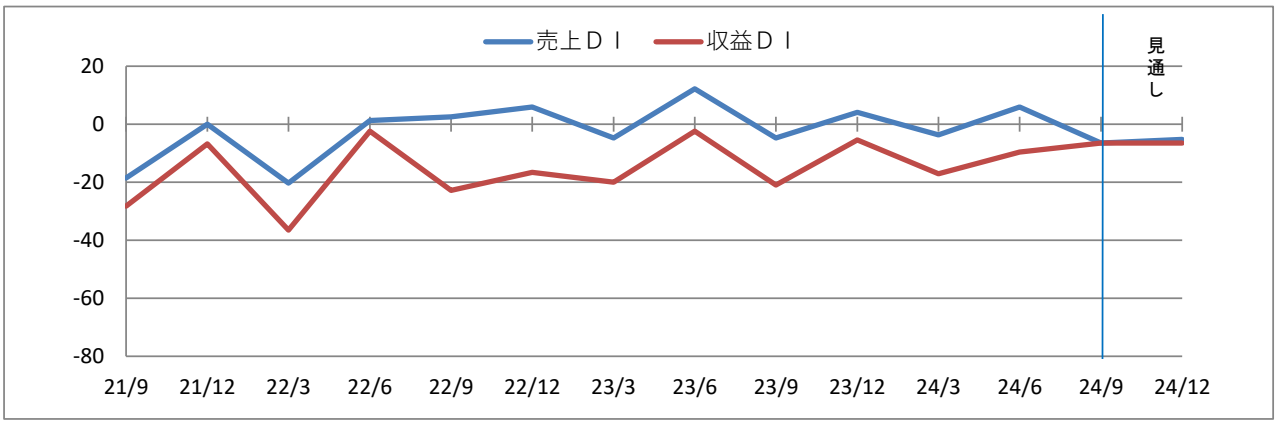
2024年10-12月期は、売上ＤＩが1.3ポイント上昇し、収益ＤＩが±0.0ポイント、販売価格ＤＩが1.3ポイント下落し、販売数量ＤＩが9.3ポイント上昇すると見込んでいます。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が77.6%（前回比＋0.2ポイント）、「売上停滞減少」が60.5%（前回比＋1.0ポイント）、「一般経費増大」が44.7%（前回比△4.1ポイント）となり、仕入コスト上昇と売上の低迷がますます深刻化しています。

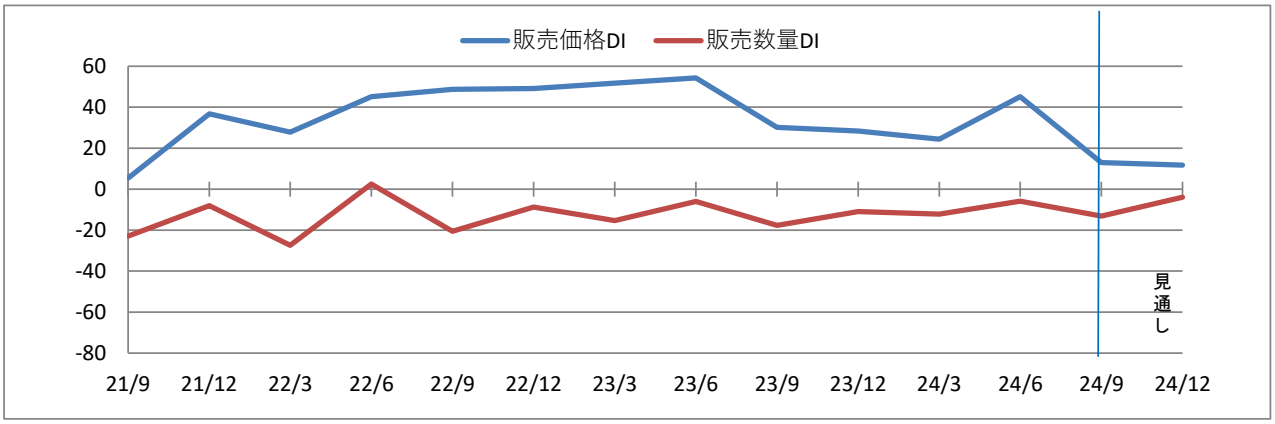
設備投資は「実施中」が11.0%（前回比△6.7ポイント）、「予定あり」が8.2%（前回比△4.5ポイント）で合計19.2%となり、設備投資意欲は大きく後退しました。混沌とした景況の先行きが、設備投資意欲に影響していると思われます。

売上ＤＩ・収益ＤＩの推移

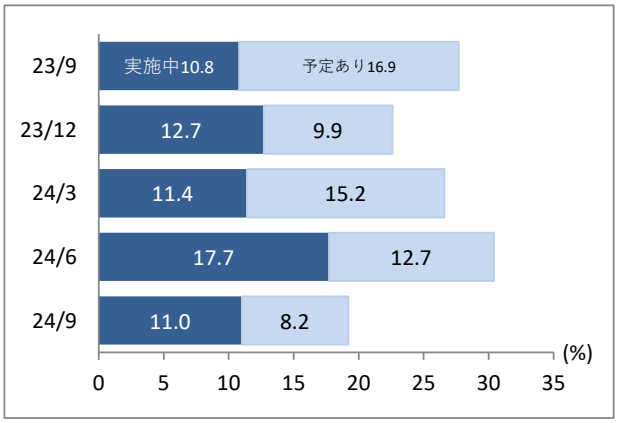
n= 77



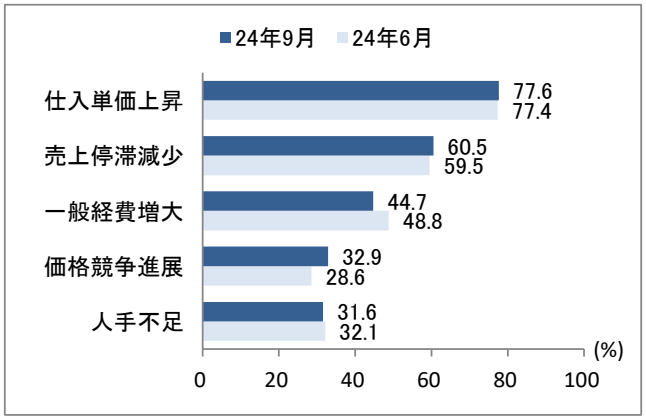
販売価格ＤＩ・販売数量ＤＩの推移



設備投資動向



経営上の問題点



小売業　メリハリ消費拡大　年末浮上か？

売上ＤＩは±0.0（前回比＋16.0ポイント）、収益ＤＩは－21.9（前回比△2.5ポイント）となり、前回調査時の7-9月期の見通しと比べ、売上ＤＩは11.6ポイント上振れし、収益ＤＩは2.5ポイント下振れしました。

販売価格ＤＩは26.8（前回比△5.4ポイント）、販売数量ＤＩは－9.7（前回比＋16.5ポイント）となり、賃上げ効果の浸透などから販売数量が増加したことが、売上の回復に繋がっています。

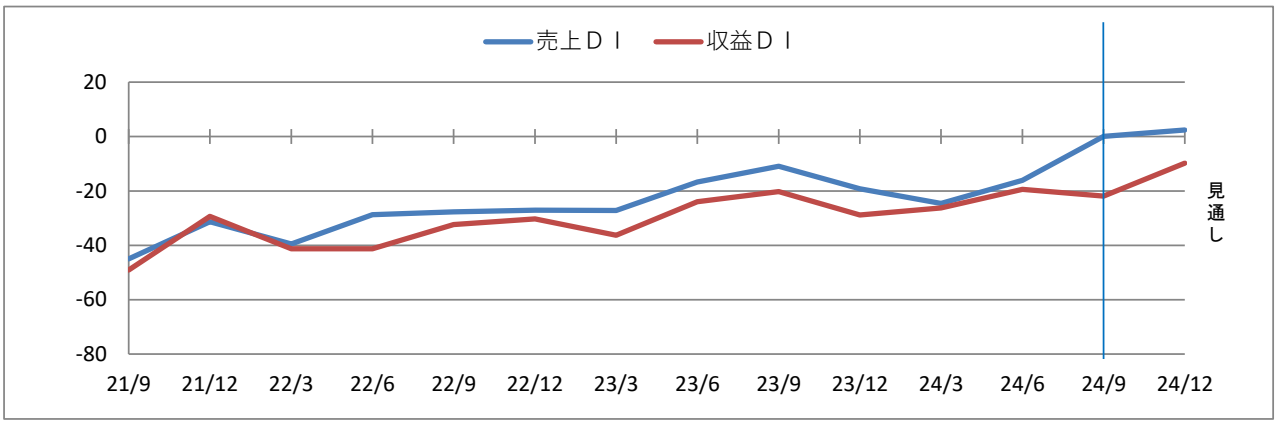
2024年10-12月期は、売上ＤＩが2.4ポイント、収益ＤＩが12.1ポイントそれぞれ上昇し、価格ＤＩは4.3ポイント下落し、販売数量ＤＩは2.4ポイント上昇すると予想し、年末商戦を控え、販売数量の増加による売上の回復に期待を寄せています。

物価の上昇が依然続く中、消費者は購入を控える一方ではなくメリハリを効かせた消費スタイルに変化しており、年末商戦を控え、個人消費マインドが回復基調となるのかどうか、分水嶺にあると思われます。

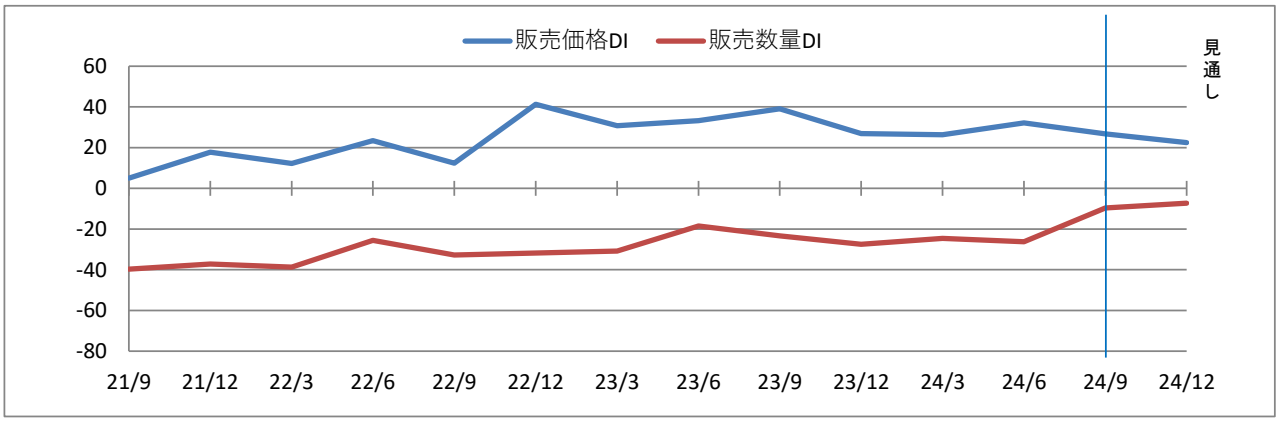
経営上の問題点は、「仕入単価の上昇」が65.9%（前回比△1.3ポイント）、「売上停滞減少」が51.2%（前回比△6.2ポイント）、「一般経費増大」が43.9%（＋2.9ポイント）、「ニーズ多様化」が41.5%（前回比＋2.2ポイント）となり、多岐に亘る問題点への対応を迫られています。

設備投資は「実施中」13.2%（前回比△3.2ポイント）、「予定あり」が10.5%（前回比＋3.9ポイント）で合計23.7%となり、設備投資意欲は前回調査からさらに上向いています。

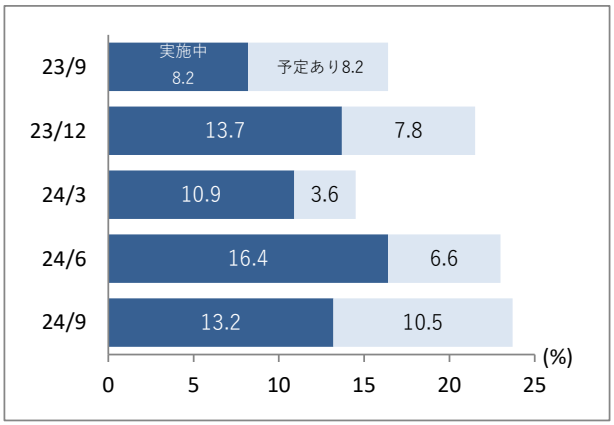
売上ＤＩ・収益ＤＩの推移　n= 41



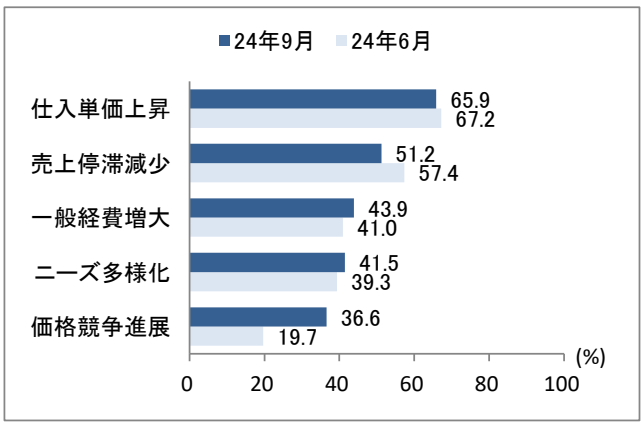
販売価格ＤＩ・販売数量ＤＩの推移



設備投資動向



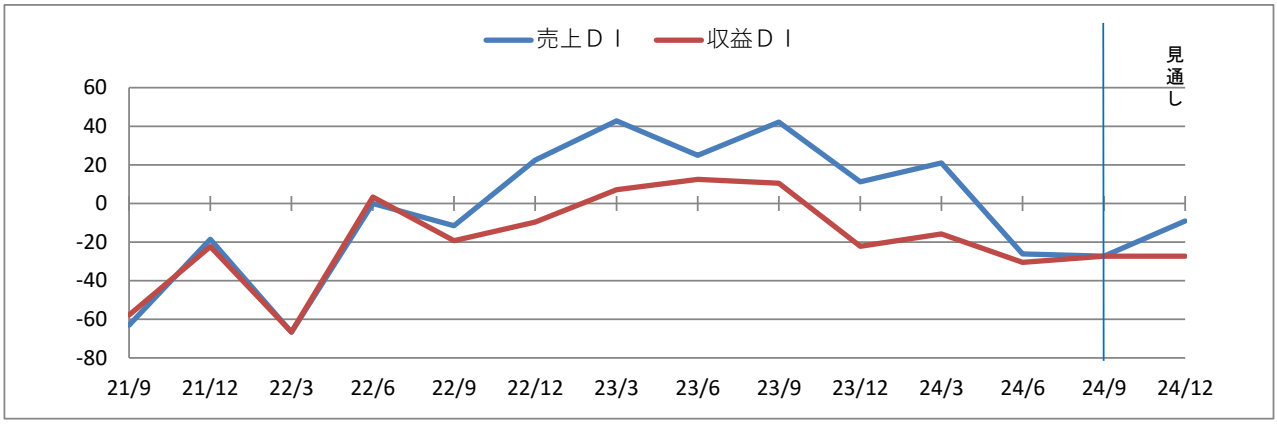
経営上の問題点



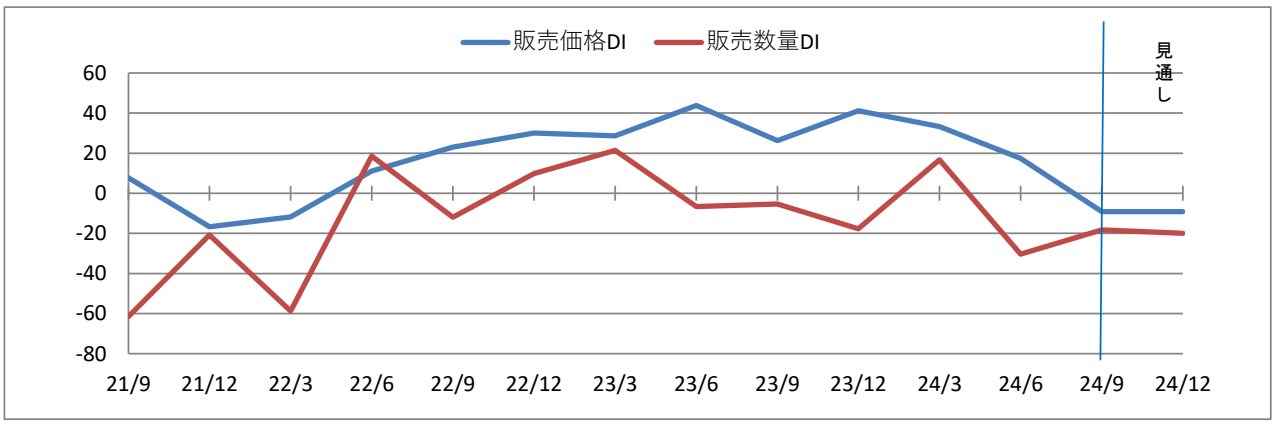
飲食業　落差はげしい　市内と郊外

売上ＤＩは－27.3（前回比△1.2ポイント）、収益ＤＩは－27.3（前回比＋3.2ポイント）と、前回調査時の7-9月期の見通しと比べ、売上ＤＩは5.6ポイント、収益ＤＩは2.3ポイントそれぞれ下振れしています。
販売価格ＤＩは－9.1（前回比△26.5ポイント）、販売数量ＤＩは－18.2（前回比＋12.2ポイント）となり、数量の増加が売上を支える要因となっています。
インバウンド需要の恩恵もあり、市内の飲食店は売上が好調ですが、郊外の商店街の飲食店は苦戦を強いられています。賃上げ効果が徐々に浸透していますが、それを上回る物価高が続く様相があり、節約志向の払拭には時間が必要です。
2024年10-12月期は、売上ＤＩが18.2ポイント上昇し、収益ＤＩは±0.0ポイント、販売価格ＤＩは±0.0ポイント、販売数量ＤＩは1.8ポイント下落すると予想しています。
忘年会など年末シーズンを控え期待があるものの、消費者の「2件目需要」に繋がる息の長い業況の回復となるかは不透明です。
経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が100.0%（前回比＋4.2ポイント）まで急伸し、「一般経費増大」が54.5%（前回比△16.3ポイント）、「人手不足」が54.5%（前回比△8.0ポイント）に下落しています。
設備投資は「実施中」が27.3%（前回比＋2.3ポイント）、「予定あり」が9.1%（前回比△3.4ポイント）で合計36.4%となり、「予定あり」が徐々に減少しており、設備投資の先行きに暗雲が立ち込めています。

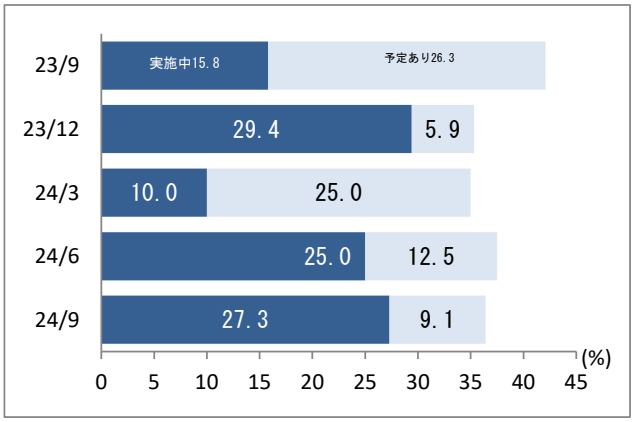
売上ＤＩ・収益ＤＩの推移　n= 11



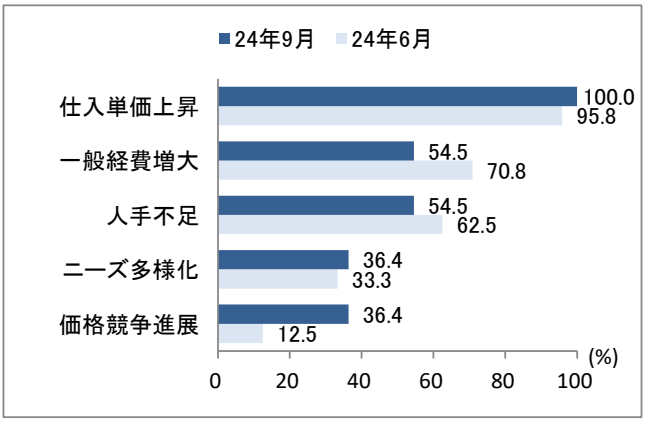
販売価格ＤＩ・販売数量ＤＩの推移



設備投資動向



経営上の問題点



建設業　住宅購入躊躇　金利先高感強

売上ＤＩは－5.2（前回比＋6.7ポイント）、収益ＤＩは－9.5（前回比＋5.2ポイント）と前回調査から上昇しました。前回調査時の7-9月期の見通しと比べ、売上ＤＩが5.2ポイント、収益ＤＩが3.9ポイントそれぞれ下振れしています。

販売価格ＤＩは15.1（前回比＋4.3ポイント）、販売数量ＤＩは－2.4（前回比＋9.7ポイント）となり、価格・数量ともに上昇しています。

8月までの大阪の公共工事の累計は、件数・請負金額ともに前年比増加し好調を維持していますが、働き方改革による影響で工期の長い工事が多く、人件費など支払いが先行する上に利幅は小さくなっています。

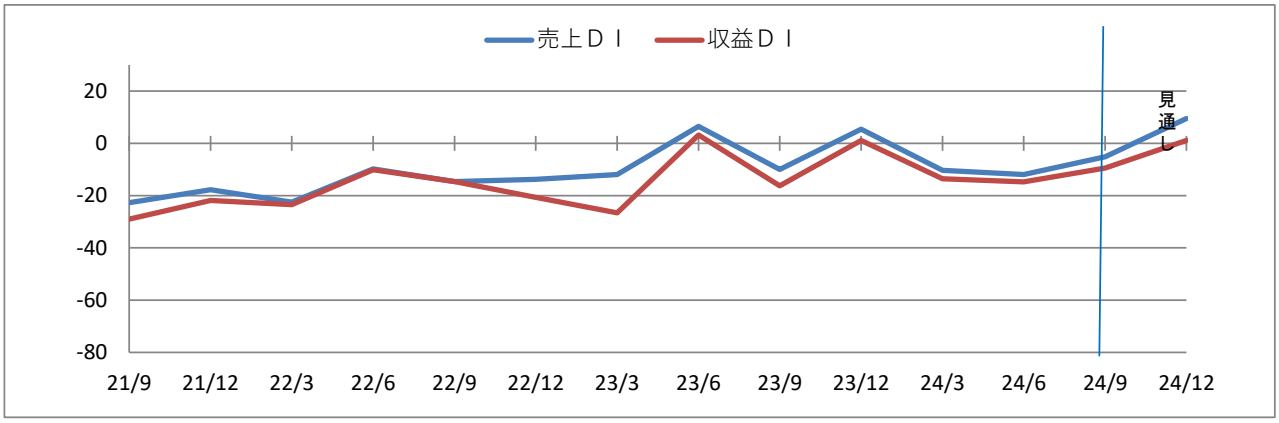
大阪万博関連受注は好調ですが、消費者は物件価格の高止まりや金利の先高感から住宅購入を控える傾向が見られます。

2024年10-12月期は、売上ＤＩが14.7ポイント、収益ＤＩが10.6ポイントそれぞれ上昇すると予想しています。

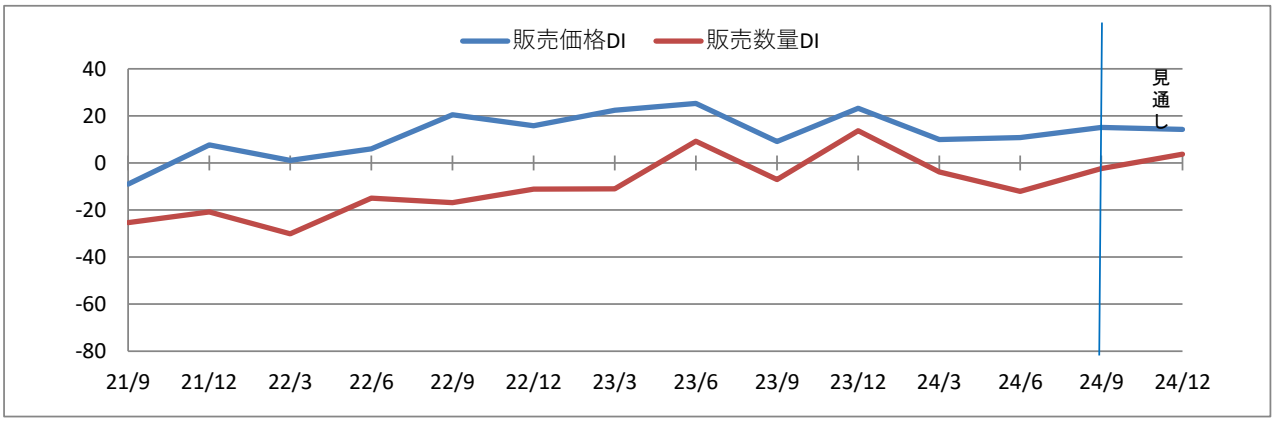
経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が68.7%（前回比△12.0ポイント）、「人手不足」が56.6%（前回比△2.1ポイント）と依然高止まりが続いています。

設備投資は「実施中」が13.3%（前回比＋6.8ポイント）、「予定あり」が12.2%（前回比△1.7ポイント）で合計25.5%となり、前回調査から設備投資意欲は大きく上昇しています。

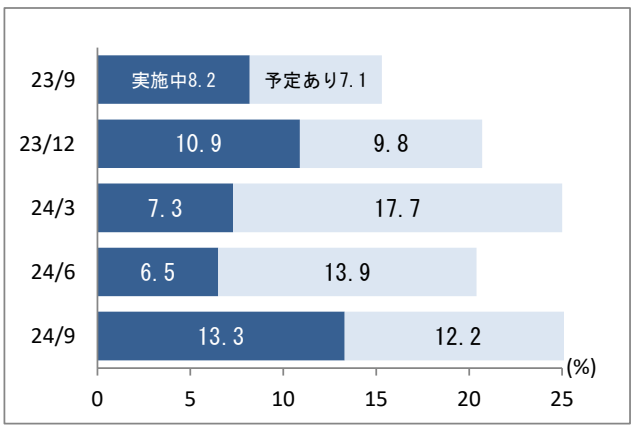
売上ＤＩ・収益ＤＩの推移　n= 99



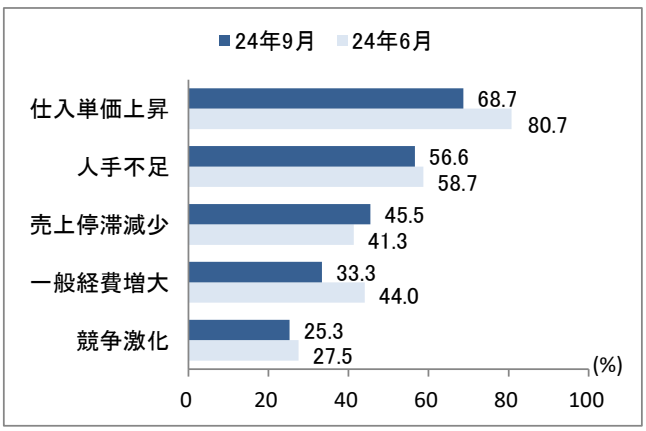
販売価格ＤＩ・販売数量ＤＩの推移



設備投資動向



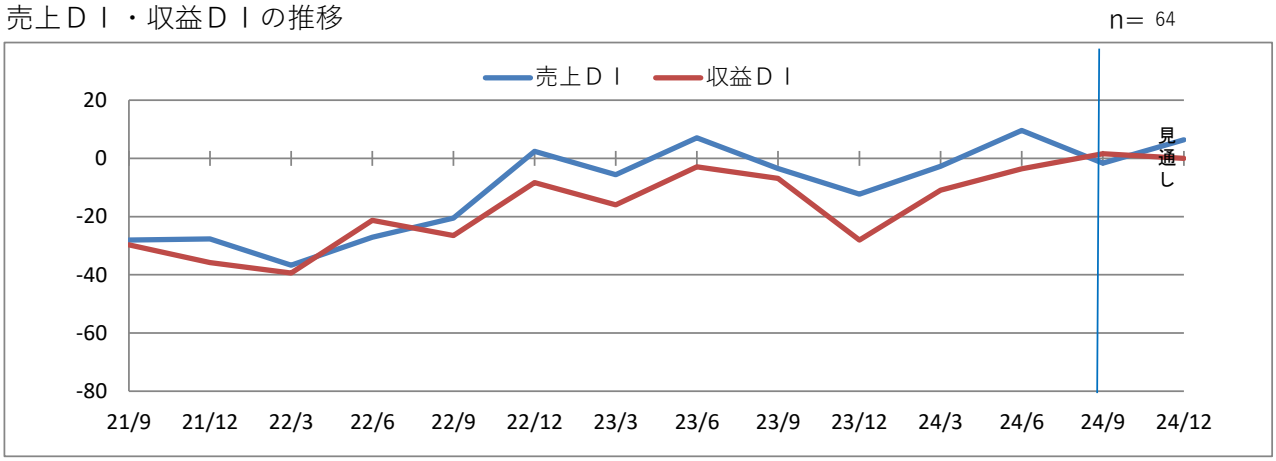
経営上の問題点



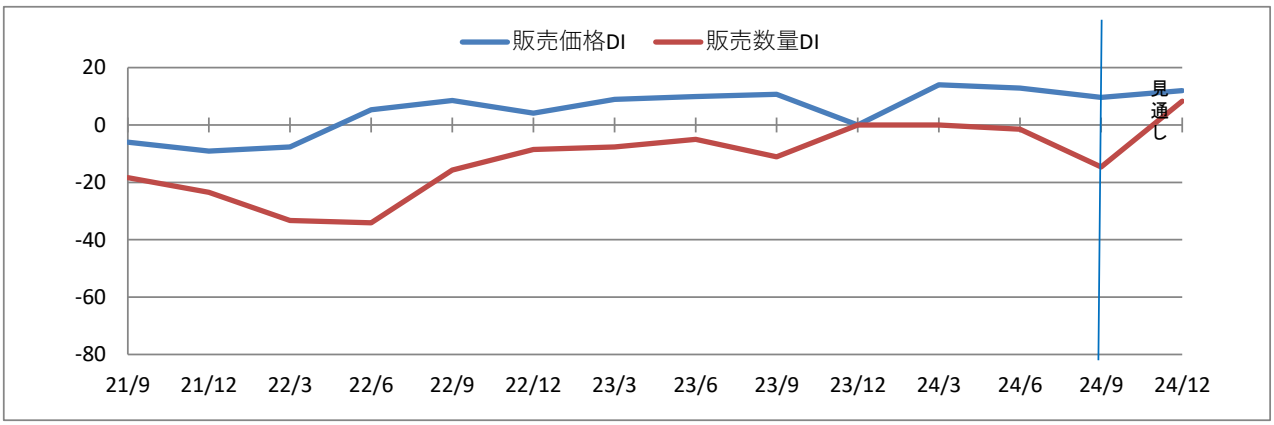
サービス業　サービス支出節約　物価高騰先行

売上ＤＩは－1.6（前回比△11.2ポイント）、収益ＤＩは1.6（前回比＋5.2ポイント）となり、前回調査時の7-9月の見通しを売上ＤＩは21.1ポイント、収益ＤＩは3.3ポイントそれぞれ下振れしています。
販売価格ＤＩは9.6（前回比△3.3ポイント）、販売数量ＤＩ－14.6（前回比△13.1ポイント）となり、価格・数量ともに下落しています。販売数量の減少が売上の減少に繋がっています。
宿泊業は外国人宿泊客に支えられ売上が好調ですが、止まらない物価高による影響が消費者の節約志向を強めサービス業は苦戦しています。
2024年10-12月期は、売上ＤＩが8.0ポイント上昇して収益ＤＩは1.6ポイント下落、販売価格ＤＩが2.4ポイント、販売数量ＤＩが22.9ポイントと、それぞれ上昇すると予想しています。
賃上げ効果の浸透と年末商戦への期待はあるものの、先の見えない物価の動向によりこのまま業況が回復に向かうのか不透明です。
経営上の問題点は、「人手不足」が63.9%（前回比＋10.2ポイント）と依然として根強い問題点であり、また、「一般経費増大」が60.7%（前回比＋11.9ポイント）、「ニーズ多様化」が41.0%（前回比＋5.6ポイント）となりました。
設備投資は「実施中」が14.5%（前回比＋1.2ポイント）、「予定あり」が14.5%（前回比△1.2ポイント）で合計29.0%となり、設備投資意欲は横ばいに推移しています。

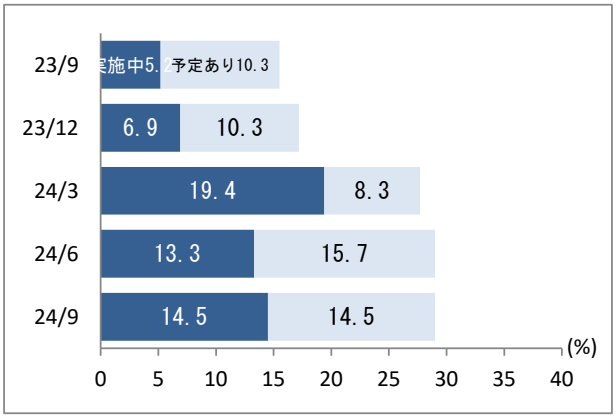
売上ＤＩ・収益ＤＩの推移



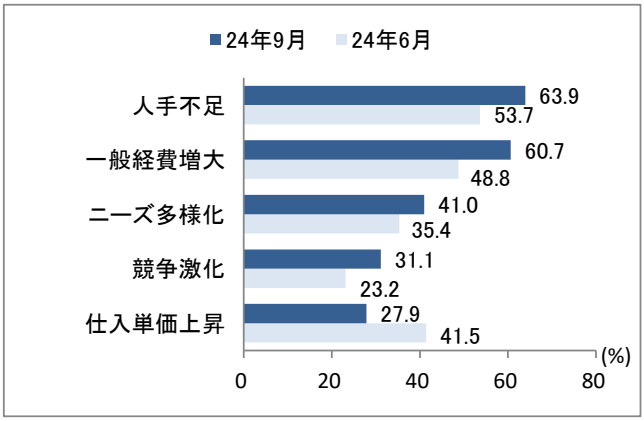
販売価格ＤＩ・販売数量ＤＩの推移



設備投資動向



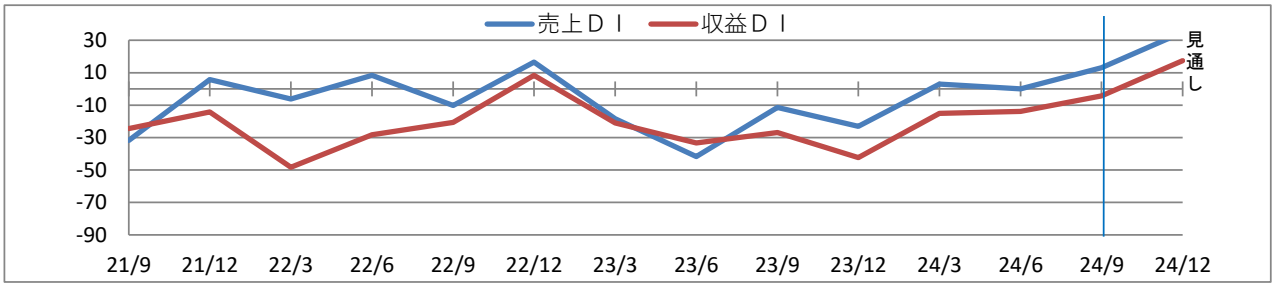
経営上の問題点



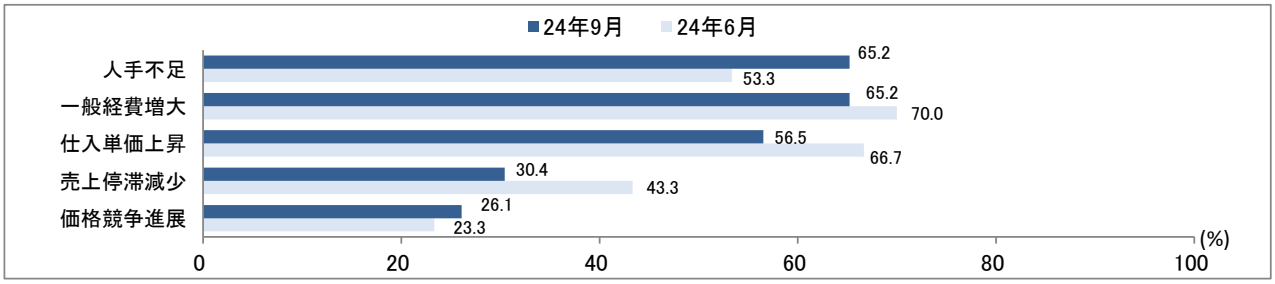
運輸業　物流回復なれど　鉄物流は停滞

売上ＤＩは13.1（前回比＋13.1ポイント）、収益ＤＩは－4.3（前回比＋9.5ポイント）となりました。
前回調査時の7-9月の見通しから、売上ＤＩは14.5ポイント、収益ＤＩは11.2ポイントそれぞれ下振れし、2024年10-12月期は、売上ＤＩが21.8ポイント、収益ＤＩは21.7ポイントそれぞれ上昇すると予想しています。
賃上げ効果の浸透とともに物流量が増加し、年末商戦へ大きく期待していますが「燃料油価格激変緩和補助金が来年も続くか注視しています」という声も聞かれ、燃料コストの動向に不安を抱えています。
経営上の問題点は、「人手不足」が65.2%、「一般経費増大」が65.2%、「仕入単価上昇」が56.5%となりました。

売上ＤＩ・収益ＤＩの推移　n= 23



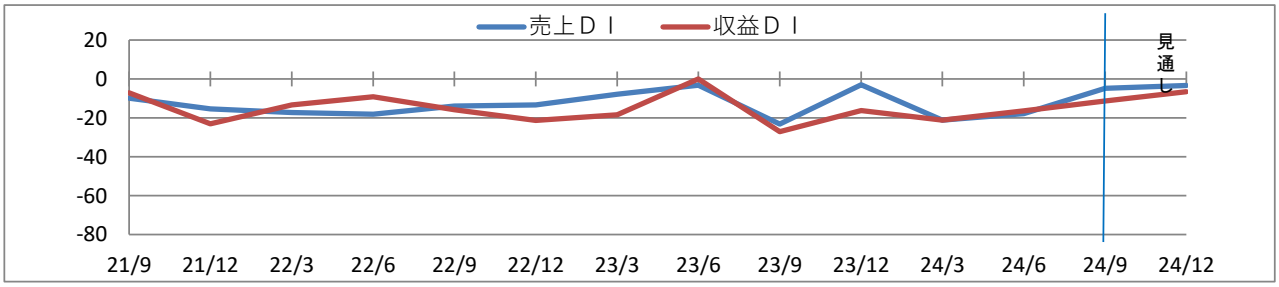
経営上の問題点



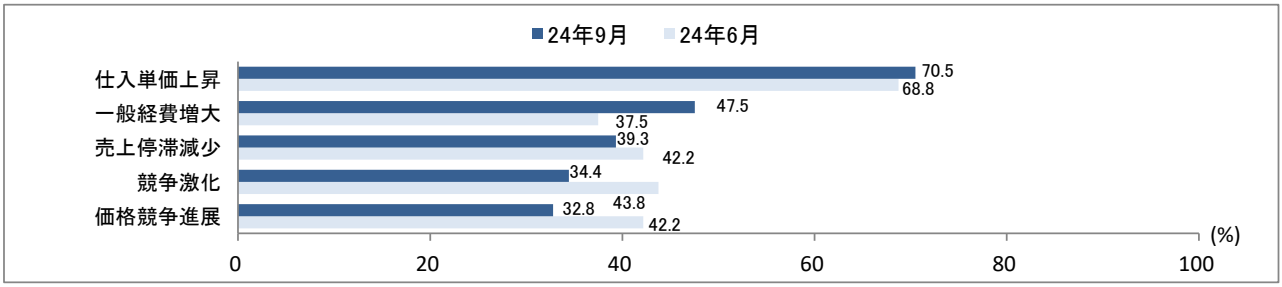
不動産業　高すぎる物件　強い金利先高観

売上ＤＩは－4.8（前回比＋13.1ポイント）、収益ＤＩは－11.4（前回比＋5.0ポイント）とそれぞれ上昇し、前回調査時の7-9月期の見通しから、売上ＤＩは8.8ポイント、収益ＤＩは6.6ポイント上振れしました。
高価格物件が多く賃貸物件の利回りは低く、購入が難しくなっています。
経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が70.5%となり、金利の先高感と相まって、物件購入を断念するケースも出てきています。

売上ＤＩ・収益ＤＩの推移　n= 62



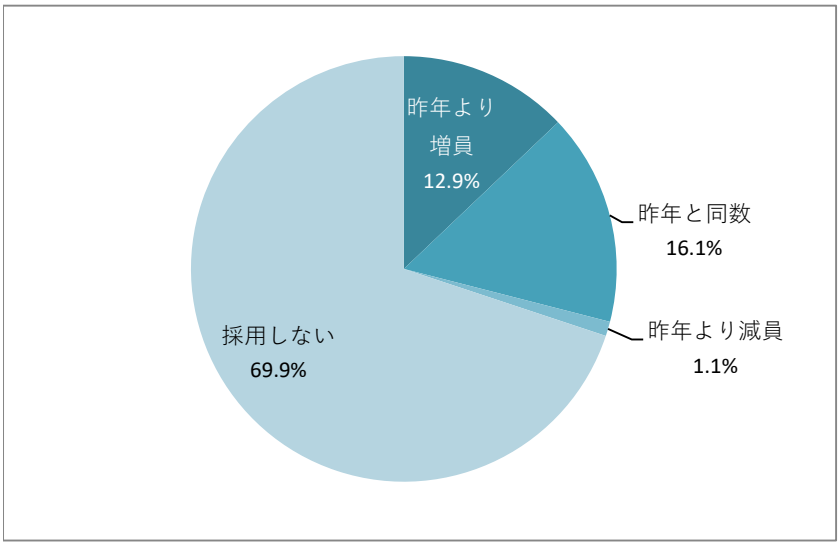
経営上の問題点



来春の採用について　採用（昨年比同数）予定増加

来年度の雇用動向

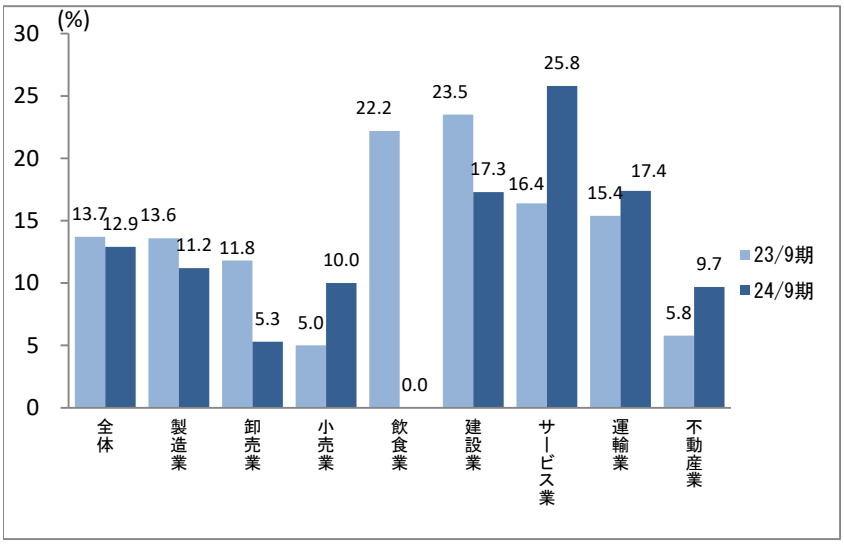
n=560



「採用する」は30.1%、「採用しない」は69.9%となり、採用に前向きな企業が前年（29.2%）より増加しました。その内訳では、「昨年より増員」は12.9%（前回比△0.8ポイント）、「昨年と同数」は16.1%（前回比＋1.9ポイント）、「昨年より減員」は1.1%（前回比△0.2ポイント）となり、同数を考える企業が増加しています。長きにわたる人手不足を背景に、人材確保に懸命です。

増員予定（業種別）

n=560

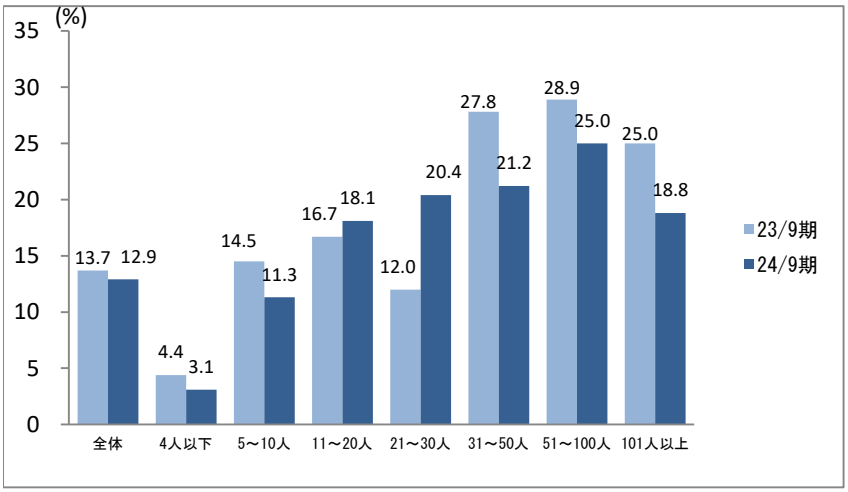


「昨年より増員」と回答した企業を業種別に見ると、サービス業が25.8%（前回比＋9.4ポイント）、運輸業が17.4%（前回比＋2.0ポイント）、建設業が17.3%（前回比△6.2ポイント）と上位を占めました。

これらの業種では、経営上の問題点として人手不足感は深刻であり、今後の事業継続のため、採用に積極的です。

増員予定（従業員規模別）

n=560



「昨年より増員」と回答した企業を従業員規模別に見てみると、特に「51～100人」が25.0%（前回比△3.9ポイント）、「31～50人」が21.2%（前回比△6.6ポイント）と多く、従業員規模に関わらず、多くの企業が増員に積極的です。